

SSSV 昌原大学校 (Changwon National University)

研究室交流(2014年11月10日—18日)

静岡大学 東郷・島村・藤井研究室

発表者

- 笠原 麗生
- 森 要太



日程

- 11/10 到着, レセプション
- 11/11 KIMS & RIMS 見学, 講演(藤井先生), ウェルカムパーティー
- 11/12 Song 研究室ラボツアー, サッカー交流
- 11/13 ワークショップ(研究発表会)
- 11/14 PAL 見学, POSCO 歴史資料館, 講演(東郷先生)
- 11/15 社会見学(慶州市)
- 11/16 社会見学(釜山)
- 11/17 野外交流, 講演(島村先生), お別れパーティー

概要

- Changwon National university (昌原大学校)
人文, 社会, 経商, 自然科学, 工科などの学部から成る韓国の国立大学である。

- 東郷・島村・藤井研究室:
材料の強度と破壊に関する研究.
- Song研究室:
複合材や構造物の機械的特性に関する研究.



集合写真

参加者

教諭: 東郷先生, 島村先生, 藤井先生

学生: 院生(6名)

亀井俊希, 河守基寛, 小崎俊哉,
篠原智也, 西川雅人, 山田竜永
学部生(8名)

秋元洸太郎, 岩尾優寛, 笠原麗生,
菊島広大, 翠隼人, 森要太,
森川将英, 吉田陽

Participants

Changwon National University

Prof. J.I.Song

Atta ur Rehman Shah, Seung-bhin Park,
M.N. Prabhakar, Young-moc Lee, Zhenhua Li,
Nor Azali Azmir, Yi-qi Wang, Dong-woo Lee,
M. CHANDRASEKHAR, Min-soo Sun,
Chang-uk Kim, Sang-jin Kim, Min-seung Jun,
Jin-chul Park

レセプション (1日目)



国際空港から韓国へ



レセプション

- Changwon(昌原市)は名古屋から飛行機で約1時間半のところにあり、人口51万7千人の都市である。

KIMS & RIMS 見学, ウェルカムパーティー(2日目)

- ✓ KIMS(Korea Institute of Materials Science):新素材の研究を行う
- ✓ RIMS(Research Institute of Middle & small Shipbuilding):小型, 中型の船舶について研究を行う



炭素繊維でできた車のボンネット(KIMS)



波や風を再現できるプール(RIMS)

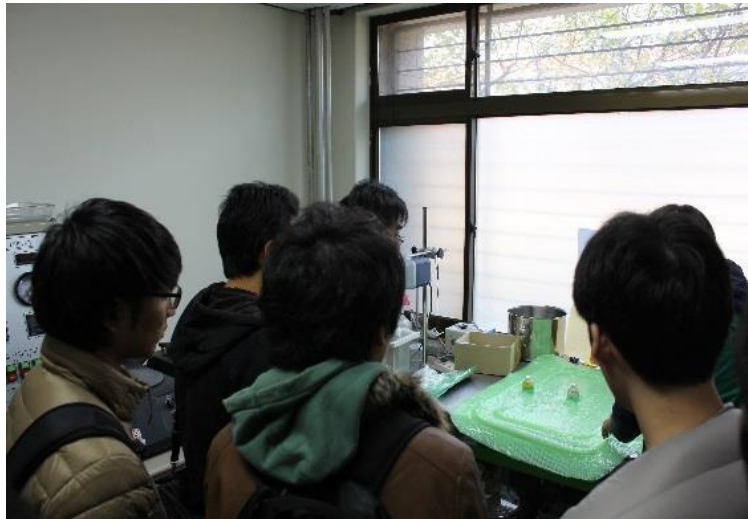


藤井先生の特別講演



ウェルカムパーティー(料理は刺身!)

Song研究室ラボツアー，サッカー交流試合(3日目)



Song先生の研究室見学



説明をうける様子



ファインプレー！



楽しく交流しました！

ワークショップ，研究発表会（4日目）



Song先生と東郷先生



英語での研究発表（口頭発表）



白熱する議論（ポスター発表）



スンドゥブで打ち上げ！

Pohang加速器研究所, POSCO歴史資料館(5日目)

- ✓ PAL(Pohang accelerator laboratory): 放射光大型実験施設. 材料科学, 表面科学, 蛋白結晶学, X線顕微鏡, リソグラフィなど世界レベルの設備がある.
- ✓ POSCO: 1973年, 八幡製鐵, 富士製鐵と日本鋼管の技術導入により, 浦項市に国営の浦項総合製鐵所第一期設備を建設. 1983年, 粗鋼生産能力910万トン規模の浦項製鐵所を完成.



研究施設内部



歴史資料館



東郷先生の特別講演

社会見学, 慶州市(6日目)

Gyeongju(慶州市):
 韓国の歴史文化都市. 市内には3つの世界遺産が存在し, 日本の京都のような世界遺産都市である. 新羅王国の都・金城の地であり, 石窟庵と仏国寺が1995年に世界遺産登録. 韓国の古都で, 韓国国内はもちろん, 世界各地からたくさんの観光客が訪れる.



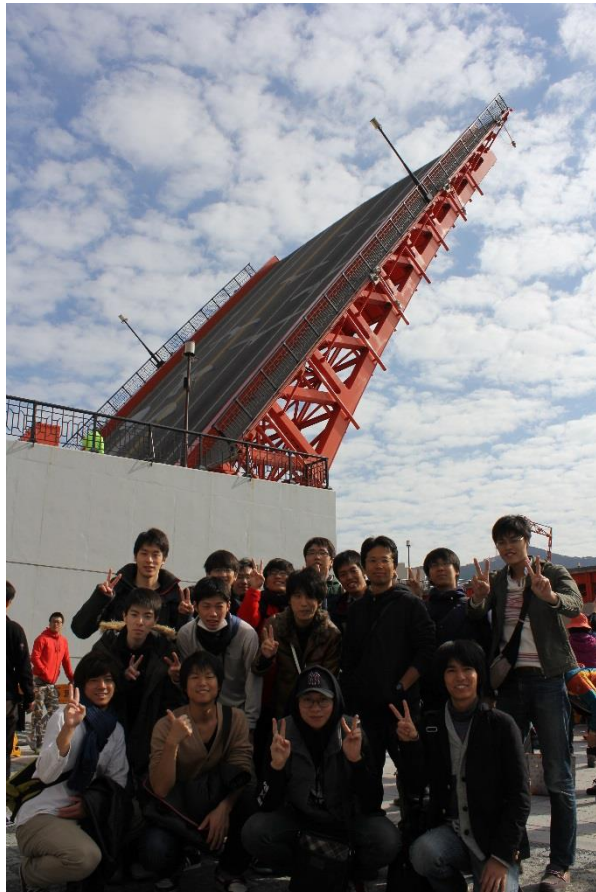
世界遺産・石窟庵



世界遺産・仏国寺

社会見学, 釜山(7日目)

釜山は韓国の三大都市のうちの1つ



釜山名物の可動橋



釜山タワー



細い路地の市場

お別れ会(8日目)



午前は大学近くでハイキング！



島村先生の特別講演



プレゼンテーションの表彰式



最後のお別れパーティー

交流会を終えて



- 今回のSSSVでは、十分にコミュニケーションをとり交流を深めることができた。しかし、互いの英語能力が高ければ、その交流をより深いものにでき、プレゼンテーションにおいても互いに意見を交わすことができたのではないかと考えると、これからも英語を継続的に勉強しなければならないと感じた。
- SSSVを通じて、言語だけでなく食文化、景観など、日本との文化の違いを直に体験することができた。これを機に日本の文化に囚われず、国際的な観点から様々な物事をとらえられるようにしていきたい。

Thank you for your attention.